様式第３号（第７条関係）

耐風診断調査票（一次診断）

【木造住宅耐震改修事業費補助金用】

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 対象 | 項目 | 記入欄 |
| 一次診断者 | 所属名 |  |
| 診断者名 |  |
| 所在地 |  |
| 連絡先 | 電話番号：　　　　　　電子メールアドレス： |
| 評価依頼者 | 氏名 | 　　　　　　　　　　様　　　　　　連絡先： |
| 建築物の概要等（ヒアリング） | 所在地 |  |
| 竣工時期 | 築年数　　　年 | 竣工時期　　　西暦　　　年 | □不明 |
| 増築有無 | □無　□有　増築部築年数　　　　年　　　概要： |
| 階数 | □平屋 | □２階建 | 屋根勾配：□６寸以下　□急勾配 |
| 屋根形状 | □寄棟　□切妻　□入母屋　□片流れ　□その他（　　　　　） |
| 屋根材 | □粘土瓦　□ＰＣ瓦　□Ｊ形　□Ｆ形　□Ｓ形□瓦かどうか不明　□瓦以外の屋根材 |
| 屋根改修 | □無　□有　実施時期　西暦　　　年　　概要： |
| 屋根不具合 | □無　□有　□雨漏り（　　　　）　□しっくいのはがれ（　　　）　　　　　　□その他（　　　　） |
| 屋根診断（地上からの目視等） | 全体調査 | □屋根に被害がある　□屋根に変形又は歪みがある　□瓦が飛散している　□瓦が崩れている　□瓦が破損している□瓦にずれ又は浮上がりがある　□接着剤の流出痕がある□その他の破損等（　　　　） |
| 適合診断 | □上記の「全体調査」に該当する項目がある |
| □2001年より以前に施工された瓦屋根の建築物であり、屋根改修がされていない |
| □瓦屋根が土葺き工法だと思われる　□瓦屋根の工法が不明 |
| □瓦屋根が非防災タイプだと思われる□瓦屋根の種類が不明 |
| □瓦屋根の緊結方法が次のような方法となっている |
| 軒 | 軒瓦に緊結材が見えない（瓦にビス、銅線等による緊結がない。） |
| けらば | 袖瓦に緊結材が見えない（瓦にビス、銅線等による緊結がない。） |
| 棟 | 緊結材が見える（瓦にボルト、ビス等による緊結がない。） |
| 平部 | 平部がずれている（瓦の配置が蛇行しており、留め付けがされていない可能性が高い。） |
| 診断結果 | □地震又は強風により脱落又は飛散するおそれが低い（適合診断に該当する項目がない。） |
| □耐震性及び耐風性を確認するためには二次診断の実施が必要（適合診断に該当する項目が1以上ある。） |
| 所見 |  |

耐風診断調査票（二次診断）

【木造住宅耐震改修事業費補助金用】

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 対象 | 項目 | 記入欄 |
| 調査担当 | 会社名・代表者 | 会社名：　　　　　　　代表者名： |
| 所在地 |  |
| 連絡先 | 電話番号：　　　　　　　　電子メールアドレス： |
| 診断資格者名 | 氏名： |
| 診断者の資格 | □瓦屋根診断技士　□瓦屋根工事技士　□かわらぶき技能士（１級、２級）□建築士（１級、２級、木造）　□その他 |
| 依頼者 | 氏名 | 　　　　　　　　　　様 |
| 対象建物 | 住所 |  |
| 瓦の種類 | □**Ｊ**形防災瓦　□**Ｆ**形防災瓦　□**Ｓ**形防災瓦　□Ｊ形非防災瓦　□**Ｆ**形非防災瓦　□**Ｓ**形非防災瓦□ＰＣ瓦　□その他（　　　　） |
| 構法 | □引掛け桟　□土葺き　□接着補強　□その他（　　）□不明（　　　）　 |
| 平部 | 桟瓦の留め付け | □全数　□千鳥緊結　□（　）枚おきに留め付け　□無緊結　□不明（　　　） |
| □くぎ（１本以上）　□ねじ（１本以上）　□緊結線　□その他（　　）□不明（　　）□瓦の種類がＦ形非防災瓦である場合、くぎ等２本以上で緊結（１本は不可）□ガイドラインによる標準仕様（　　　　　　） |
| 劣化又は損傷等の状況 | □劣化等なし　□劣化等あり　□不明（　　　　）部位：□瓦　□接合部　□瓦桟木　□下葺き材（種類：　）状態：□割れ　□浮き　□ズレ　□飛散又は脱落　□損傷□その他（　　　） |
| 軒部 | 軒瓦の留め付け | □全数３点緊結　尻部（２本以上）：□くぎ　□ねじ　□緊結線　　　　　　　　補強（１本以上）：□パッキン付ねじ　□**７**形くぎ　□緊結線　　　　　　　 □ガイドラインによる標準仕様（　　　　　　）□全数補強なし　□補強なし　□不明（　　） |
| 劣化又は損傷等の状況 | □劣化等なし　□劣化等あり　□不明（　　　　）状態：□割れ　□浮き　□ズレ　□飛散又は脱落　□損傷　□その他（　　　） |
| けらば部 | 袖瓦の留め付け | □全数３点緊結　尻部（２本以上）：□くぎ　□ねじ　□緊結線　　　　　　　 補強（１本以上）：□パッキン付ねじ　□７形くぎ　□緊結線　　　　　　　　□ガイドラインによる標準仕様（　　　　　　）□全数補強なし　□補強なし　□不明（　　） |
| 劣化又は損傷等の状況 | □劣化等なし　□劣化等あり　□不明（　　　　）状態：□割れ　□浮き　□ズレ　□飛散又は脱落　□損傷　□その他（　　　） |
| 棟部 | 棟の種類及び状態 | □冠瓦伏せ棟の場合 | 冠瓦の固定：□全数留め付け　□（ ）枚おきに留め付け □なし　　　　　　□ねじ　□くぎ　□緊結線　□不明（　　　） □ガイドラインによる標準仕様（　　　　　　） |
| □のし瓦積み棟の場合　 | 大棟（ ）段　隅棟（ ）段　□下り棟（ ）段冠瓦の固定：□ねじ　□トンボ（棟芯あり）　□トンボ（棟芯なし）　　　　□大回し等　□なし　□不明（　　　　　）のし瓦の固定：□緊結線（相互緊結）　□なし　□不明（　　　　）□ガイドラインによる標準仕様（　　　　　　） |
| 劣化状況 | □劣化等なし　□劣化等あり　□不明（　　　　）状態：□浮き又はズレ　□脱落　□損傷　□緊結材の切れ又は浮き　　　□しっくいの劣化　□その他（　　　　　） |
| 改修が必要な部位 | □平部　□軒部　□けらば部　□棟部　□その他（　　　） |
| 診断結果 | □地震又は強風により脱落し、又は飛散するおそれが低い（改修が必要な部位がない。） |
| □耐震性及び耐風性を確保するためには改修の実施が望ましい（改修が必要な部位が１つ以上ある。） |
| 所見・要望事項 |  |

　注

１　ガイドラインとは、瓦屋根の標準設計・施工ガイドラインのことをいいます。

２　下線は、令和２年国土交通省告示第1435号により改正された昭和46年建設省告示第109号に規定されている仕様を示します。

３　著しく損傷し、又は劣化等している場合は、その状況及び位置が分かるように写真を撮影し、屋根伏図等にその位置と写真番号を示してください。

４　改修が必要な部位が告示基準に適合する場合、原則、その部位の改修工事については補助対象外とします。

|  |
| --- |
| □屋根伏図　□その他（　　） |
| （写真を添付） | （写真を添付） |
| 改修が必要な部位 | 改修案 |
| □1階□2階 | □平部　□軒部　□けらば部□棟部（　棟）□その他（　　　） |  |
| □1階□2階 | □平部　□軒部　□けらば部□棟部（　棟）□その他（　　　） |